


2020年10月5日  
Vol.113



みんな

題字 谷川俊太郎さん 

## 多様な人たちで

# 「誰も取り残されない社会」を創る

今年の4月より、一般社団法人パーソナルサポートセンター、特定非営利活動法人都市デザインワークス、当センターの3団体が連携して「せんだい・みやぎソーシャルハブ」を運営しています。これは、仙台・宮城の市民活動支援や多セクターの協働を生み出し、誰も取り残されない社会を創ることを目指す場です。県内のNPO、行政、企業で働いている方、学生たちと情報交換をすることでコロナ禍の情報共有や支援策の検討を進めています。

情報交換はFacebookのグループページやオンライン会議システムZoomで開催してきました。情報交換の内容はnoteの記事にまとめて発信しています。

4月から7月までは週に1回、8月からは2週に1回程度Zoomでの情報交換会を開催しています。6月には「困窮」「子ども・教育」「協働」と3つのテーマを設けて情報交換会を実施し、各々の必要な情報を共有することができました。

また、情報交換を続ける中、「コロナ禍で突然生活が困窮してしまう」というケースが見えてきました。その実態を把握するために、生活困窮の相談窓口、大学生支援の現場の方から状況をうかがいました。支援団体の方々へのヒアリングや情報交換会の内容を受けて、相談や支援の情報が届いていない若者へ向けて必要な情報を届けるためのアウトリーチの方法を参加団体とともに検討しています。



noteの記事  
はこちら



Zoomでの情報交換会の様子

## せんだい・みやぎNPOセンターへの入会・会費納入・寄付のお願い

当センターでは、「せんだい・みやぎソーシャルハブ」をはじめとした県内における協働による社会課題の解決を進めていくため、運営資金が必要となります。当センターは直接困っている人にお金を渡すという活動ではありませんが、今困っている多くの人、これから困ってしまうかもしれない人々を救うための仕組みを整えています。このニュースレター「みんな」をご覧の「社会のために何かしてみたい」「困っている人々を助きたい」というみなさん、ぜひ当センターへの入会または寄付をお願いいたします。また、すでに会員になられている方で会費をまだ納めていないという方もぜひ会費納入という形でご協力ください。



詳細はこちら

# コロナ禍でのせんだい・みやぎNPOセンターの動き

## ● コロナ禍における団体運営支援

4月に認定特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる、認定特定非営利活動法人地星社、一般社団法人みやぎ連携復興センター、当センターが協働で、県内の市民活動団体を対象に「**新型コロナウイルス感染拡大への対応及び支援に関する宮城県内NPO法人緊急アンケート**」を実施し、150件の回答をいただきました。アンケートによると、活動の支援者や利用者、法人の経営に**悪影響が出ているとの回答は96件、全体の64%**を占めていました。この悪影響というのは「商品やサービス等の売上・受注の減少」「顧客や利用者の減少」「事業費や補助金の減額」が主でした。また、団体が必要とする支援としては「資金の支援」「情報の提供」の回答が多くありました。

こうした状況を踏まえ、県では県内NPO等が各種専門家（社会保険労務士、公認会計士、税理士、弁護士、中小企業診断士等）へ相談を行う費用に対して一部助成を行う「**NPO等における専門家相談支援事業助成金**」を交付することになり、当センターと杜の伝言板ゆるるで相談調整を行っています。

## ● 各サポートセンターでの対応

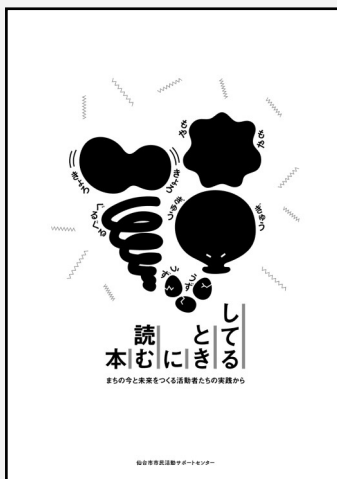
仙台市市民活動サポートセンターでは、除菌や三密回避のための取り組みの他、感染症予防のための注意喚起を**多言語**で行いました。

また、ブログでの情報発信やローカルニュースサイト「TOHOKU360」と連携して社会課題に取り組む団体を紹介する動画配信「**いづいっちゃんねる**」等、オンラインでの発信も行っています。相談対応では、イベント自粛、生活困窮、団体の資金調達、といったコロナ禍での相談が寄せられました。

多賀城市市民活動サポートセンターでは、貸室の利用後に、利用者にも机や椅子などの消毒の協力をお願いしています。スタッフ、利用者の双方が消毒することで、よりセンターが**みんなの場所だ**という**感覚**が育まれます。

事業に関しては、オンラインでの活動を支援するためのZoom活用講座を行っています。その他、コロナ禍ではありますが、新たな価値を生み出せるような講座や情報発信を企画中です。

## 地域のために何かできないかと、もやもやしているすべての人へ



仙台市市民活動サポートセンターでは、2020年2月に、冊子『もやもやぐるぐる ぎゅうぎゅう きょろきょろ うずうず しているときに読む本—まちの今と未来をつくる活動者たちの実践から—』を発行しました。編集は、2014年からサポセンと河北新報社で実施してきた「**市民ライター講座**」の卒業生7人と地元のクリエイターと力を合わせて取り組みました。

冊子で紹介するのは、これまでサポセンの講座に参加したり、相談に訪れたりした方々の「その後」の様子です。現場で奮闘する実践者のストーリーから、「**自分ができること**」を社会に活かす入口や、活動の悩みを解決するヒントが見つかるかもしれません。特に、活動に行き詰っていたり、新たなチャレンジをするために悩んでいたりする市民活動団体や企業の方々におすすめてです。仙台市市民活動サポートセンターウェブサイトよりダウンロードできますのでぜひご覧ください。

発行 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

住所：〒980-0803 仙台市青葉区国分町1-8-10 大和ビル4階

TEL：022-264-1281 FAX：022-264-1209

E-mail：minmin@minmin.org HP：https://minmin.org/



HPはこちら